

## 五島行

宮坂静生

福江島九句

十月の鷗尾つぽを切られしか  
石積みがいのちの島や初嵐  
教会に船着くそこが秋の波止  
晴るゝ日はこすもすいろのロザリオを  
教会はいつもからつぽ百合は実に

柏崎(美弥良久の崎)

遣唐使花ならば石路ここを発つ  
空海の唐へ風待ち港は雷

畑に舟揚げて冬菜を蒔きゐたり  
火山涙ほどにばつたよ鬼岳は

\*

もこもこと秋の深まるボタ山よ  
もみぢより枯るゝが早く博多湾  
沼太郎素頓狂な眼の凹み  
継ぎ接ぎの港子別れ鳥荒れ  
耳搔きの穫物の大き夷講  
晩秋や切手不足のラブレター

